

(H、昭、一一、三、二五)

滿洲國ニ於ケル日本國滿洲國間條約案
ニ關スルニ於ケル日本國滿洲國間條約案
居住及滿洲國ノ課稅等

大日本帝國政府ハ昭和七年九月十五日調印ノ日本國滿洲國間議定書ノ趣旨ニ據リ滿洲國ノ健全ナル發達ヲ促進シ且日滿兩國間ニ現存スル緊密不可分ノ關係ヲ永遠ニ鞏固ナラシムル爲現ニ日本國ガ滿洲國ニ於テ有スル治外法權ヲ漸進的ニ撤廢シ且南滿洲鐵道附屬地行政權ヲ調整乃至移讓スルコトニ決シタルニ因リ

滿洲國政府ハ右日本國政府ノ決定ヲ多トスルト共ニ之ニ對應シテ日滿兩國臣民ノ滿洲國領域内ニ於ケル融合發展ヲ確保増進スルノ必要ナルヲ認メタルニ因リ

兩國政府ハ日本國ガ滿洲國ニ於テ有スル治外法權及南滿洲鐵道附屬地行政權ニ關シ先ヅ日本國臣民ノ居住及各種權利利益ノ享有竝ニ滿洲國ノ課稅及產業等ニ關スル法令ノ適用ニ關シ左ノ通協定セリ

第一條

日本國臣民ハ滿洲國ノ領域内ニ於テ自由ニ居住往來シ農業商工業其ノ他
公私各種ノ業務及職務ニ從事スルコトヲ得ベク且土地ニ關スル一切ノ權
利ヲ享有スベシ

日本國臣民ハ滿洲國ノ領域内ニ於テ一切ノ權利ノ享有及利益ノ享受ニ關
シ滿洲國臣民ニ比シ不利益ナル待遇ヲ受クルコトナカルベシ

日本國臣民ハ滿洲國ノ領域内ニ於テ本條約附屬協定ノ定ムル所ニ從ヒ同
國ノ課稅及產業等ニ關スル行政法令ニ服スベシ

日本國政府ハ前項ノ滿洲國法令ガ南滿洲鐵道附屬地ニ在リテハ本條約附
屬協定ノ定ムル所ニ從ヒ屬地的ニ適用セラルルコトヲ承認ス

本條ノ適用ニ關シ日本國臣民ハ如何ナル場合ニ於テモ滿洲國臣民ニ比シ
不利益ナル待遇ヲ受クルコトナカルベシ

第三條

前二條ノ規定ハ之ヲ法人ニ適用シ得ル限り日本國法人ニ適用スルモノト
ス

本條約ノ規定ハ日滿兩國間ノ特別ノ約定ニ基ク特定ノ日本國臣民又ハ法人ノ權利、特權、特典及免除ニ影響ヲ及ボサザルモノトス

本條約ハ昭和十一年七月一日即チ康德三年七月一日ヨリ實施セラレベシ

本條約ノ正文ハ日本文及漢文トシ日本文本文ト漢文本文トノ間ニ解釋ヲ異ニスルトキハ日本文本文ニ依リ之ヲ決ス

右證據トシテ下名ハ各本國政府ヨリ正當ノ委任ヲ受ケ本條約ニ署名調印セリ

第四條

本條約ノ規定ハ日滿兩國間ノ特別ノ約定ニ基ク特定ノ日本國臣民又ハ法人ノ權利、特權、特典及免除ニ影響ヲ及ボサザルモノトス

第五條

本條約ハ昭和十一年七月一日即チ康德三年七月一日ヨリ實施セラレベシ

第六條

本條約ノ正文ハ日本文及漢文トシ日本文本文ト漢文本文トノ間ニ解釋ヲ異ニスルトキハ日本文本文ニ依リ之ヲ決ス

右證據トシテ下名ハ各本國政府ヨリ正當ノ委任ヲ受ケ本條約ニ署名調印セリ

昭和 年 月 日即チ康德 年 月 日新京ニ於テ本書ニ通ヲ作成ス

滿洲帝國駐劄大日本帝國特命全權大使
滿洲帝國外交部大臣

Faint bleed-through text from the reverse side of the page.

Main body of faint bleed-through text from the reverse side of the page.

附屬協定案

本日滿洲國ニ於ケル日本國臣民ノ居住及滿洲國ノ課稅等ニ關スル日本國
滿洲國間條約ニ署名スルニ當リ兩國全權委員ハ左ノ通協定セリ

第一條

滿洲國政府ハ從來日本國臣民ノ有スル商租權ヲ其ノ内容ニ應ジ所有權其
ノ他ノ土地ニ關スル權利ニ變更スル爲速ニ必要ノ措置ヲ執ルベシ

第二條

條約第二條ノ規定ニ依リ日本國臣民ノ服スベキ滿洲國ノ課稅及產業等ニ
關スル行政法令ノ範圍及其ノ適用ノ體様ハ豫メ滿洲帝國駐劄大日本帝國
特命全權大使ト滿洲帝國外交部大臣トノ間ニ協議決定セラルベシ
前項ノ規定ニ依リ日本國臣民ノ服スベキ滿洲國法令ニ付滿洲國政府ニ於
テ重要ナル變更ヲ加ヘントスルトキハ日本國臣民ガ滿洲國ノ裁判管轄權
ニ服スルニ至ル迄豫メ滿洲帝國駐劄大日本帝國特命全權大使ノ承認ヲ經
ベシ

本條第一項ノ規定ニ依リ候約實施後直ニ協議決定セラルベキ滿洲國法令
ハ海木田賦、契稅、營業稅、法人營業稅、出產糧石稅、木稅、鑛業稅、
鑛業登錄稅、酒稅、捲菸稅、統稅、商業登記稅及地方稅ニ關スル課稅法
令並ニ工業所有權、度量衡、計量、鑛業、市場、畜產、金融及專賣ニ關
スル行政法令ニ限ラルベシ

滿洲國政府ハ前項ニ掲グル諸稅中營業稅及法人營業稅並ニ地方稅中房捐
及戶別捐ヲ日本國臣民ニ課スルニ當リテハ條約實施後當分ノ内豫メ滿洲
帝國駐劄大日本帝國特命全權大使ト滿洲帝國外交部大臣トノ間ニ協議決
定セラルル所ニ從ヒ輕減稅率ヲ適用スベク地方稅中營業稅附加捐ハ右輕
減稅率ニ依ル稅額ヲ基準トスベシ但シ條約實施後直ニ適用スベキ輕減稅
率ハ營業稅、戶別捐及個人ニ賦課スル房捐ニ付テハ原稅率ノ四分ノ一タ
ルベク法人營業稅及法人ニ賦課スル房捐ニ付テハ原稅率ノ三分ノ一タル
ベシ

第三條

條約第二條ノ規定ニ依リ日本國臣民ノ服スベキ滿洲國法令ノ日本國臣民

三

日本國政府ハ別ニ滿洲國政府ト協定スル所ニ從ヒ遲クトモ昭和十二年十月三十一日即チ康德四年十二月三十一日迄ニ滿洲國領域内ニ於ケル行政警察ヲ撤廢又ハ移讓スベク右撤廢又ハ移讓ニ至ル迄ハ條約第二條ノ滿洲國法令中課税ニ關スルモノ及特ニ南滿洲鐵道附屬地ニ於ケル行政警察ト關係アルモノハ同附屬地ニ適用セラレザルベシ

ニ對スル適用及執行ニシテ司法手續ニ依ルベキモノハ日本國臣民ガ滿洲國ノ裁判管轄權ニ服スルニ至ル迄日本國領事官ニ於テ之ヲ行フモノトス前項ノ場合ニ於テハ日本國領事官ハ領事裁判ノ一般準則ニ從ヒ滿洲國當該法令ヲ適用スベシ但シ右法令ニ掲グル刑ノ中有期徒刑トアルハ懲役又ハ禁錮、拘役トアルハ二月以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ拘留、罰金トアルハ罰金又ハ科料ト看做シテ之ヲ適用スベシ本條ノ規定ニ依リ罰金、科料又ハ沒收ノ言渡アリタル場合ニ於テ其ノ罰金、科料又ハ沒收物ハ滿洲國政府ニ歸屬スベシ

第四條

日本國政府ハ別ニ滿洲國政府ト協定スル所ニ從ヒ遲クトモ昭和十二年十月三十一日即チ康德四年十二月三十一日迄ニ滿洲國領域内ニ於ケル行政警察ヲ撤廢又ハ移讓スベク右撤廢又ハ移讓ニ至ル迄ハ條約第二條ノ滿洲國法令中課税ニ關スルモノ及特ニ南滿洲鐵道附屬地ニ於ケル行政警察ト關係アルモノハ同附屬地ニ適用セラレザルベシ

メ滿洲帝國駐劄大日本帝國特命全權大使ト滿洲帝國外交部大臣トノ間ニ
協議決定セラルベシ
滿洲國政府ハ前項ノ規定ニ鑑ミ其ノ警察制度ヲ更ニ整備スベク且關係日
本側施設及職員ノ引續ニ付必要ナル準備ヲ爲スベシ
日本國政府ハ南滿洲鐵道附屬地ニ於ケル行政警察ノ移讓ニ至ル迄同附屬
地内外ニ於ケル日本國臣民ノ課稅上ノ負擔均衡ヲ確保スル爲條約實施ノ
日ヨリ滿洲國ガ日本國臣民ニ課スル國稅ト成ルベク同様ノ課稅ヲ同附屬
地ニ於テ實施スベシ
滿洲國政府ハ日滿兩國政府ガ別ニ協定スル所ニ從ヒ南滿洲鐵道附屬地ニ
於ケル南滿洲鐵道株式會社ノ土木教育及衛生等ニ關スル施設ノ處理ヲ經
テ爾後ニ非ザレバ同附屬地ニ於テ地方稅ヲ課セザルベシ

第五條

條約第二條ノ規定ニ依リ滿洲國法令ガ南滿洲鐵道附屬地ニ適用セララル
ト同時ニ滿洲國政府ハ豫メ滿洲帝國駐劄大日本帝國特命全權大使ト滿洲
帝國外交部大臣トノ間ニ協議決定セラルル所ニ從ヒ關係日本側施設及職

此の條約は、日滿兩國政府の間に於て、南滿洲鐵道附屬地ニ於ける行政警察ノ移讓ニ關する事項を規定し、且つ日本國臣民ノ課稅上ノ負擔均衡ヲ確保スル爲に、日本國政府ハ前項ノ規定ニ鑑ミ其ノ警察制度ヲ更ニ整備スベク、且關係日本側施設及職員ノ引續ニ付必要ナル準備ヲ爲スベシと規定するものなり。日本國政府ハ南滿洲鐵道附屬地ニ於ける行政警察ノ移讓ニ至ル迄同附屬地内外ニ於ける日本國臣民ノ課稅上ノ負擔均衡ヲ確保スル爲に、條約實施之日ヨリ滿洲國ガ日本國臣民ニ課スル國稅ト成ルベク同様ノ課稅ヲ同附屬地ニ於て實施スベシと規定するものなり。滿洲國政府ハ日滿兩國政府ガ別ニ協定スル所ニ從ヒ南滿洲鐵道附屬地ニ於ける南滿洲鐵道株式會社ノ土木教育及衛生等ニ關する施設ノ處理ヲ經テ爾後ニ非ザレバ同附屬地ニ於て地方稅ヲ課セザルベシと規定するものなり。此の條約は、日滿兩國政府の間に於て、南滿洲鐵道附屬地ニ於ける行政警察ノ移讓ニ關する事項を規定し、且つ日本國臣民ノ課稅上ノ負擔均衡ヲ確保スル爲に、日本國政府ハ前項ノ規定ニ鑑ミ其ノ警察制度ヲ更ニ整備スベク、且關係日本側施設及職員ノ引續ニ付必要ナル準備ヲ爲スベシと規定するものなり。日本國政府ハ南滿洲鐵道附屬地ニ於ける行政警察ノ移讓ニ至ル迄同附屬地内外ニ於ける日本國臣民ノ課稅上ノ負擔均衡ヲ確保スル爲に、條約實施之日ヨリ滿洲國ガ日本國臣民ニ課スル國稅ト成ルベク同様ノ課稅ヲ同附屬地ニ於て實施スベシと規定するものなり。滿洲國政府ハ日滿兩國政府ガ別ニ協定スル所ニ從ヒ南滿洲鐵道附屬地ニ於ける南滿洲鐵道株式會社ノ土木教育及衛生等ニ關する施設ノ處理ヲ經テ爾後ニ非ザレバ同附屬地ニ於て地方稅ヲ課セザルベシと規定するものなり。

... 日本國臣民ノ服スベキ滿洲國法令ニ關スル滿洲
國當該官憲ノ行政處分ニ對シ日本國臣民ニ於テ不服アルトキハ滿洲國政
府ハ之ガ救正ニ付適當ナル措置ヲ講ズベシ

員ヲ右適用當時ノ狀態ニ於テ引繼グベシ

第六條

條約第二條ノ規定ニ依リ日本國臣民ノ服スベキ滿洲國法令ニ關スル滿洲
國當該官憲ノ行政處分ニ對シ日本國臣民ニ於テ不服アルトキハ滿洲國政
府ハ之ガ救正ニ付適當ナル措置ヲ講ズベシ

第七條

本協定ノ條項ニ從ヒ滿洲帝國駐劄大日本帝國特命全權大使ト滿洲帝國外
交部大臣トノ間ニ協議決定セラレタル事項及滿洲國政府ガ同大使ノ承認
ヲ經タル事項ハ夫々日滿兩國ノ官報ニ公示セララルベシ

第八條

本協定ハ條約ト同時ニ實施セララルベシ
右證據トシテ兩國全權委員ハ本協定ニ署名調印セリ

昭和八年八月八日

本館長八幡侯爵同御ニ賀慶ナリト云

昭和八年八月八日

本館長八幡侯爵ニ賀慶ナリト云

本館長八幡侯爵ニ賀慶ナリト云

昭和八年八月八日

本館長八幡侯爵ニ賀慶ナリト云

本館長八幡侯爵ニ賀慶ナリト云

昭和八年八月八日

本館長八幡侯爵ニ賀慶ナリト云

昭和 年 月 日即チ康徳 年 月 日新京ニ於テ

姓名 姓名

滿洲國ニ於ケル日本國臣民ノ居住及滿洲國ノ課稅等
ニ關スル日本國滿洲國間條約及同附屬協定ニ關スル
日滿兩國全權委員間了解事項

第一條約第一條ニ付

未開放蒙地ニ於テ日本國臣民ガ土地ニ關スル權利ヲ取得スル場合ニハ
滿洲國當該官憲ノ許可ヲ要スルモノトス

第二條約第二條ニ付

一 滿洲國政府ハ滿洲國領域内ニ於テ現ニ日本人居留民團體ガ日本國臣
民ノ教育事業ヲ經營シ居ルノ事情ニ鑑ミ滿洲帝國駐劄大日本帝國特
命全權大使ト滿洲國外交部大臣トノ間ニ協議決定セララル所ニ從ヒ
日本國臣民ノ教育事業ノ爲毎年特ニ定ムル金額ヲ分擔スベシ

二 滿洲國政府ハ現行租稅制度ヲ更ニ整備スベシ

三 滿洲國政府ハ條約第二條ノ規定ニ依リ日本國臣民ノ服スベキ滿洲國
法令ノ適用ニ當リ日本國臣民ガ日本國法令ニ依リ現ニ享受スル權利

又ハ利益ノ保護ニ付必要ナル措置ヲ講ズベシ
 第三附屬協定第四條ニ付
 南滿洲鐵道附屬地内ニ於テ生産セラレ同附屬地外ニ於テ消費セラルル物
 品及同附屬地外ニ於テ生産セラレ同附屬地内ニ於テ消費セラルル物品
 ニ對スル消費稅ノ賦課徵收方法ハ日滿兩國當該官憲間ニ於テ協議決定
 セラルベシ

又ハ利益ノ保護ニ付必要ナル措置ヲ講ズベシ
 第三附屬協定第四條ニ付
 南滿洲鐵道附屬地内ニ於テ生産セラレ同附屬地外ニ於テ消費セラルル物
 品及同附屬地外ニ於テ生産セラレ同附屬地内ニ於テ消費セラルル物品
 ニ對スル消費稅ノ賦課徵收方法ハ日滿兩國當該官憲間ニ於テ協議決定
 セラルベシ

昭和 年 月 日 即チ 康徳 年 月 日 新京ニ於テ

姓 名
 姓 名

交換公文案（秘密）

（往翰）

以書翰啓上致候陳者本日署名ノ滿洲國ニ於ケル日本國臣民ノ居住及滿洲國ノ課稅等ニ關スル日本國滿洲國間條約ニ關シ本使ト閣下トノ間ニ左記諒解成立致候

一 滿洲國政府ハ日本國臣民ノ課稅標準決定ニ付其ノ適正ヲ期スル爲當該稅務官憲ヲシテ日本人居留民團體又ハ其ノ他適當ナル者ニ課稅上參考トナルベキ事項ヲ諮問セシムベシ

二 滿洲國政府ハ日本國臣民ニ對スル租稅ノ賦課徵收事務及日本國臣民ノ金融機關ニ對スル直接監督事務ハ成ルベク日本人官吏ヲシテ之ニ當ラシムベシ

本使ハ閣下ニ於テ右了解ヲ確認セラレシコトヲ希望致候

本使ハ茲ニ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬 具

本館ハ其ニ屬下ニ因テ寄附セラルルモノトシテ亦其ノ類ニ屬ス

本館ハ其ノ屬下ニ在リテ亦其ノ類ニ屬ス

（封書）

本館ハ其ノ屬下ニ在リテ亦其ノ類ニ屬ス

本館ハ其ノ屬下ニ在リテ亦其ノ類ニ屬ス

本館ハ其ノ屬下ニ在リテ亦其ノ類ニ屬ス

本館ハ其ノ屬下ニ在リテ亦其ノ類ニ屬ス

本館ハ其ノ屬下ニ在リテ亦其ノ類ニ屬ス

本館ハ其ノ屬下ニ在リテ亦其ノ類ニ屬ス

本館ハ其ノ屬下ニ在リテ亦其ノ類ニ屬ス

本館ハ其ノ屬下ニ在リテ亦其ノ類ニ屬ス

本館ハ其ノ屬下ニ在リテ亦其ノ類ニ屬ス

交際公文書（編書）

昭和 年 月 日 新京ニ於テ

滿洲帝國駐劄大日本帝國特命全權大使

滿洲帝國外交部大臣

閣下

明治二十九年六月
日本新編神皇正統記
日本新編神皇正統記
日本新編神皇正統記

(來翰)

以書翰啓上致候陳者本日附貴翰ヲ以テ左ノ如ク御申越相成敬承致候

「陳者本日著名ノ滿洲國ニ於ケル日本國臣民ノ居住及滿洲國ノ課稅等ニ關スル日本國滿洲國間條約ニ關シ本使ト閣下トノ間ニ左記了解成立致候

一、滿洲國政府ハ日本國臣民ノ課稅標準決定ニ付其ノ適正ヲ期スル爲當該稅務官憲ヲシテ日本人居留民團體又ハ其ノ他適當ナル者ニ課稅上參考トナルベキ事項ヲ諮問セシムベシ

二、滿洲國政府ハ日本國臣民ニ對スル租稅ノ賦課徵收事務及日本國臣民ノ金融機關ニ對スル直接監督事務ハ成ルベク日本人官吏ヲシテ之ニ當ラシムベシ

本使ハ閣下ニ於テ右了解ヲ確認セラレンコトヲ希望致候」

本大臣ハ茲ニ前記了解ヲ確認致候

本大臣ハ茲ニ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

康徳 年 月 日 新京ニ於テ

本大臣ハ... 閣下

本大臣ハ... 閣下

滿洲帝國駐劄大日本帝國特命全權大使 閣下

滿洲帝國外交部大臣



(H案附屬)

告示(佈告)案

外務省告示第 號

外交部佈告第 號

滿洲帝國駐劄大日本帝國特命全權大使及滿洲帝國外交部大臣ハ昭和
 年 月 日即チ康德 年 月 日新京ニ於テ署名セラ
 レタル滿洲國ニ於ケル日本國臣民ノ居住及滿洲國ノ課稅等ニ關スル
 日本國滿洲國間條約附屬協定第二條及第四條ノ規定ニ基キ左ノ通協
 議決定セリ

昭和 年 月 日
 (康德 年 月 日)

外務大臣、
 外交部大臣、

滿洲帝國駐劄大日本帝國特命全權大使
 滿洲帝國外交部大臣

- 營業稅法
- 營業稅法施行規則
- 法人營業稅法
- 法人營業稅法施行規則
- 出產糧石稅法

第一、滿洲國ニ於ケル日本國臣民ノ居住及滿洲國ノ課稅等ニ關スル條約ニ基キ昭和十一年七月一日即チ康德三年七月一日ヨリ日本國臣民ノ服スベキ滿洲國法令左ノ如シ

- 一、租稅徵收ニ關スルモノ
 - (國稅徵收法)
 - (國稅犯則者處分法)
- 二、國稅ニ關スルモノ
 - (田賦法)
 - (契稅法)

（此處有極淡之印）
 日本國臣民ノ居住及滿洲國ノ課稅等ニ關スル條約ニ基キ昭和十一年七月一日即チ康德三年七月一日ヨリ日本國臣民ノ服スベキ滿洲國法令左ノ如シ

出產糧石税法施行規則
木税法
木税法施行規則
鑛業税法
鑛業登録税法
酒税法
酒税法施行規則
捲菸税法
捲菸税法施行規則
三種統税法
三種統税法施行規則
商業登記税法
三、地方税ニ關スルモノ
地方税法

三、地方税ニ關スルモノ
地方税法

地方税法施行規則

康徳二年民政部令第一二號

四工業所有權ニ關スルモノ

商標法

商標法施行細則

商標登録令

商標登録令施行規則

商標局ニ對スル手續ノ代理ニ關スル件

(特許發明法)

(特許登録令)

(特許收用令)

(軍事上秘密ヲ要スル發明ニ關スル件)

4

(特許發明法施行規則)

(特許登録令施行規則)

計量法施行細則
計量器ノ檢定及型式認定手数料ノ件
計量法施行細則
計量器ノ檢定及型式認定手数料ノ件

計量器ノ檢定及型式認定手数料ノ件

計量法施行細則

計量器ノ檢定手数料ノ件

度量衡法

度量衡法施行規則

度量衡器檢定手数料ノ件

五度量衡及計量ニ關スルモノ

(特許發明局ニ對スル手續ノ代理ニ關スル件)

(特許ノ手数料ニ關ル件)

(意匠法)

(意匠登録令)

(意匠法施行規則)

(意匠登録ノ手数料ニ關スル件)

六 鑛業ニ關スルモノ

鑛業法

鑛業法施行細則

鑛業登録令

鑛業登録令施行細則

鑛業法第九條ノ規定ニ依ル國防上必要ナル鑛業ヲ目的トスル

鑛業ノ出願ノ制限ニ關スル件

康徳二年勅令第九十一號ノ鑛物ヲ發見シタル者ニ對スル處置

方ニ關スル件

鑛業ニ關スル手数料ノ件

滿洲採金株式會社ノ事業區域ニ關スル件

七 市場ニ關スルモノ

中央卸賣市場法

中央卸賣市場法施行細則

- 家畜交易市場法
- 家畜交易市場法施行細則
- 八畜産ニ關スルモノ
- 賽馬法
- 賽馬法施行規則
- 九金融ニ關スルモノ
- 貨幣法
- 私帖其ノ他紙幣類似證券取締暫行辦法
- 銀行法
- 銀行法施行細則
- 銀行法第十六條ノ規定ニ依ル銀行ノ特例ニ關スル件
- 金融合作社法
- 金融合作社法施行規則
- 彩票條例

家畜交易市場法
 家畜交易市場法施行細則
 八畜産ニ關スルモノ
 賽馬法
 賽馬法施行規則
 九金融ニ關スルモノ
 貨幣法
 私帖其ノ他紙幣類似證券取締暫行辦法
 銀行法
 銀行法施行細則
 銀行法第十六條ノ規定ニ依ル銀行ノ特例ニ關スル件
 金融合作社法
 金融合作社法施行規則
 彩票條例

彩票條例施行細則

產金買上法

產金買上法施行規則

爲替管理法

爲替管理法ニ基ク命令ノ件

爲替管理法ニ關スル施行手續

(有獎債券取締法)

六 專賣ニ關スルモノ

石油類專賣法

石油類專賣法施行令

石油類專賣法第一條ニ依ル代用燃料油ノ範圍ニ關スル件

阿片法

阿片法施行令

阿片緝私法

營業ノ種類		課稅標準	稅率
卸	鹽		千分ノ〇・五
甲 木材、糠石、石油、麥粉、白綿絲、白綿布、 麻袋、豆油及豆粕			千分ノ〇・七五

第三第一ノ二ニ掲グル營業稅法ハ之ヲ日本國臣民ニ適用スル場合同
 法所定ノ稅率ニ代フルニ各稅目ニ付夫々左表ノ稅率ヲ以テス
 尤モ滿洲國政府ハ昭和十三年一月一日即チ康德五年一月一日ヨ
 リ右稅率ノ各二倍ノ稅率ヲ適用スルコトヲ得ベク昭和十五年一
 月一日即チ康德七年一月一日ヨリハ同法所定ノ稅率ヲ其ノ儘適
 用スルコトヲ得ベシ

十一、其ノ他
 查獲私土獎勵規則
 林場權整理法

收入印紙ヲ以テ納付スル手数料ニ關スル件

倉庫取扱業	運送業	瓦斯供給業	電氣供給業	物品貸付業	金錢貸付業	無盡業	保險業	製造業	物品販賣業
収入金額	収入金額	収入金額	収入金額	収入金額	収入金額	収入金額	収入金額	賣上金額	賣上金額
								乙 (甲ニ屬セザル物品)	乙 (甲ニ屬セザル物品)
								甲 (豆油、豆粕、麥粉、綿布及柞蠶絲)	甲 (糧石、石油及麥粉)
								乙 (甲ニ屬セザル物品)	乙 (甲ニ屬セザル物品)
千分ノ六二五	千分ノ三	千分ノ七五	千分ノ一〇	千分ノ一	千分ノ一	千分ノ一	千分ノ一	千分ノ一、二五	千分ノ一、二五

昭和十一年一月一日現在
 物品販賣業
 賣上金額
 乙 (甲ニ屬セザル物品) 千分ノ一、二五
 甲 (糧石、石油及麥粉) 千分ノ一、二五
 乙 (甲ニ屬セザル物品) 千分ノ一、五
 甲 (豆油、豆粕、麥粉、綿布及柞蠶絲) 千分ノ一
 乙 (甲ニ屬セザル物品) 千分ノ一、五
 保險業 千分ノ一
 無盡業 千分ノ一
 金錢貸付業 千分ノ一〇
 物品貸付業 千分ノ七五
 電氣供給業 千分ノ三
 瓦斯供給業
 運送業
 倉庫取扱業 千分ノ六二五

信周仲代問錢	請	貸	藝	席	寫	娛	理	湯	旅	興	出
託旋立理屋莊	負	座	妓	貨	真	樂	髮	屋	館	行	印
業業業業業業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	場	刷
報償金額	請負金額					收入金額				收入金額	收入金額
	土木建築 其ノ他										
千分ノ七五	千分ノ一、二五 千分ノ三					千分ノ五				千分ノ三、七五	千分ノ三、五

印刷業
 出版業
 興行場業
 料理飲食店業
 旅館業
 湯屋業
 理髮業
 娛樂場業
 寫真業
 寫貨業
 藝妓屋業
 座敷業
 請負業
 信託業
 代理業
 仲立業
 問屋業
 錢莊業

第三第一ノ二ニ掲グル法人營業税法ハ之ヲ日本國法人ニ適用スル場
 合同法所定ノ税率百分ノ六ニ代フルニ百分ノ二ヲ以テス
 尤モ滿洲國政府ハ昭和十二年一月一日即チ康德四年一月一日ヨ
 リ百分ノ四ノ税率ヲ適用スルコトヲ得ベク昭和十三年一月一日
 即チ康德五年一月一日ヨリハ同法所定ノ税率ヲ其ノ儘適用スル
 コトヲ得ベシ

第四第一ノ三ニ掲グル地方税法及地方税法施行規則ニ基キ日本國臣
 民ニ對シ賦課セラルベキ地方税ハ營業稅附加捐、地捐、房捐、
 戸別捐並ニ雜捐中車捐、船捐、漁業捐、不動産取得捐、屠宰捐、
 觀覽捐、糧捐、妓女捐、遊興捐及土地増價捐ニ限ラルベシ

第五第四ニ掲グル地方税中房捐及戸別捐ハ之ヲ日本國臣民ニ賦課ス
 ル場合合同法ニ依リ當該地方官憲ノ定ムル税率ノ四分ノ一ノ税率
 ヲ以テス但シ法人ニ賦課スル房捐ハ當該地方官憲ノ定ムル税率
 ノ三分ノ一ヲ以テス

Table with multiple columns and rows, containing faint text and numbers. The text is mostly illegible due to fading and bleed-through from the reverse side of the page.

第六日本國臣民ニ對シ第二及第三ニ特ニ定ムル稅率ヲ適用スル期間
 中滿洲國政府ニ於テ當該法令ヲ改正シ稅率ニ變更ヲ加ヘタル場
 合ニ於テ右改正稅率ガ第二及第三ニ特ニ定ムル稅率ヨリ低キト
 キハ日本國臣民ハ右低キ稅率ニ依リ課稅セラレベシ

第七第一ニ掲グル法令中度量衡及計量ニ關スルモノ、市場ニ關スル
 モノノ中家畜交易市場法及家畜交易市場法施行細則、金融ニ關

尤モ滿洲國政府ハ昭和十三年一月一日即チ康德五年一月一日ヨ
 リ右地方官憲ノ定ムル稅率ノ二分ノ一ノ稅率ヲ適用スルコトヲ
 得ベク昭和十五年一月一日即チ康德七年一月一日ヨリハ右地方
 官憲ノ定ムル稅率ヲ其ノ儘適用スルコトヲ得ベシ但シ法人ニ賦
 課スル房捐ニ付テハ昭和十二年一月一日即チ康德四年一月一日
 ヨリ右地方官憲ノ定ムル稅率ノ三分ノ二ノ稅率ヲ適用スルコト
 ヲ得ベク昭和十三年一月一日即チ康德五年一月一日ヨリハ右地
 方官憲ノ定ムル稅率ヲ其ノ儘適用スルコトヲ得ベシ

0000 0463

スルモノ竝ニ專賣ニ關スルモノハ南洋洲鐵道附屬地ニ於ケル行
 政警察ノ移讓セララル迄ハ同附屬地ニ適用セラレザルベシ但シ
 金融ニ關スルモノノ中貨幣法ノ同附屬地ニ於ケル適用ニ付テハ
 別ニ協議決定スベシ

（Faint vertical text, likely bleed-through from the reverse side of the page. The text is illegible due to fading and low contrast.)

寫

外務省

通一機密第一二六號

昭和七年二月二十五日

外務次官 永井 松三

大藏次官 黒田 英雄 殿

日本國「ポルトガル」國間通商航海ニ關スル
取極締結ノ件

本件ニ關シ一月二十七日附通一機密合第二六九號拙信ヲ以テ申進置タル
處日葡通商取極實施ノ曉ニハ我國ハ右取極第四條ニ依リ本邦トノ通商條
約中ニ日佛通商航海條約第六條ノ如キ輸入制限禁止規定モ存セス又最惠
國條款ニヨリ右規定ノ利益ニモ均霑シ得サル諸國及無條約國ヨリ來ル「

大藏省